

420403

17076

大正七年十月七日

陸軍省 第課五

十月五日

電報

十月四日午後五時三十分着  
五日午前二時六分着

參謀次長宛

在 浦潮軍參謀長

浦參第三大野

ホルワットノ極東行政官ハ近ク實現セラルヘシ之ニ関シ當  
 地一般ノ傾向ヲ搜リタルニ資產階級ハ素ヨリ之ヲ歡迎スヘシ  
 勸階級ハ之ヲ悦ハサルヘシ之ヲ概括セハ賛否相半ハスヘシト。而  
 シテ從來「ホルワット」ノ獨裁官トシテ人氣ナキハ其事情依  
 ルモノニシテ極東行政官ヲ西伯利政府ヨリ任命セラル、モノトセハ「ホ  
 ルワット」ニシテ不都合アリハ之ヲ罷免スルヲ得ヘキヲ以テ從來一般  
 「ホルワット」ニ對スル反抗モ大ニ緩和セラレヘシト云フ。

陸軍

MT

16324 20

603

ホルワット

420404

受17077號

大正七年十月七日 謹

駐政務

第

部

十月四日  
十月三日午後三時二十五分發  
十月四日午前八時十五分着

電報

參謀總長宛

在

第

三師團長

「セメク」ハ部下將校「シエメリン」大佐ニ對シ「シメク」民政長

官「フレゴント」並ニ少將「シリニコフ」及市會議員「ワクス

ベルク」ヲ逮捕ス「キヨト」ヲ命令セリ其理由ハ右三名ハ

「セメク」及日本軍ノ行動ニ對シ反感的煽動ヲナスト云フ

ニアリ「シエメリン」ハ二日朝「フレゴンド」及「シリニコフ」ヲ

捕縛シ滿州里ニ送レリ「ワクスベルグ」ハ逮捕ニ先ケ逃亡

セリ

「オムスク」新聞電報ニ依リ英國全權大使「エリオット」ハ

陸軍

九月二十九日「オムスク」ニ到着シ「オムスク」政府ノ感志ヲ歡迎

ヲ受ケタリ「エリオット」ハ「オムスク」政府ノ大臣等ニ對シ

北露ノ英國軍力既ニ「コトラス」ニ到着シ「アリ」ウヤツト

ニ向ヒ前進中ナルヲ以テ極東ヨリ前進中ノ英國軍

ト遠カラズ連絡シ得ヘキコトヲ説明セリト

(捕潮軍參謀長、第七師團長、濟)

MT 16324 20

605

MT 16324 20

604

REEL No. 1-1337

0355

420405

受17080

送

送  
送  
送

大正七年十月七日

接

管政務

策課

部

電報

参謀次長宛

在

齊藤中將

支極秘第六百四十九號

十月四日

十月三日午後六時五十分  
四日午前十一時四十分

貴電第三百三十四號 滿州里ヨリ克魯倫 庫倫ヲ經テ

イルクツク 西南方国境線ニ亘ル線以北測圖ニ関シ

本日徐樹錚ハ支那側ニテ至急五十萬一ヲ基礎トシ

テ用兵ニ使用スルニ足ル可ク直千ニ之ヲ補足ニ着手

シ各其ノ一枚ヲ我ニ送ル可キコトヲ約セリ本職ハ

経緯度測量等ヲ規正スル爲メ我カ測量手ヲ

加入セシメテハ如何ト勸誘シタルニ徐ハ外交部

交通部等ニ異論アリ実ハ最近米國ヨリ測圖ニ関

陸軍

スル交渉アリタルモ断然謝絶シタル次第ニテ固ヨリ日

支ノ關係ハ軍事協定ニ依リ米國トハ一ニ論ス可カ

ラサルハ萬々熟知スル所ナルモ今回ハ支那單獨ニテ実

行シ若シ不十分ナル點アレハ追テ修正作業ヲナスコト

ニシタシト言ヘリ

MT

16324 20

607

MT

16324 20

606

REEL No. 1-1337

0356

420406

支隊17081號

大正七年十月七日 發

駐政務 第二課

電報

參謀次長宛

在

齊藤中將

十月四日  
三月廿七日  
四月廿五日  
十月廿五日

支極秘第六百五十一號  
新疆方面諜報者ニ對スル支那官憲ノ態度ニ就キ  
九月二十九日附貴翰ノ趣敬承

一行ノ迪化着後當方ヨリ發送シタル照校電報ヲ  
受領セシ旨ノ單簡ナル電報(最後ノモノハ九月七日  
発到着セシ外他ノ情報ニ接セス當方ニ於テモ頻  
ニ焦慮シ速ニ一般ノ情况ニ大尉ノ行動並ニ支那  
官憲ノ態度等ニ付電報ス可キ旨督促シアル次第  
ニテ御未示ノ件ニ就キテハ本日陸參謀次長ニ事情

ヲ打テ明テ該地電報局ニモ念ノタメ注意ヲ與ヘンコト  
ニ要求シ置ケリ北京迪化間ノ電報ハ片道約一週  
ニ要スルヲ以テ今後半月以内ニハ何レ共事情判  
別スルコト、信ス

MT 16324 20 609

MT 16324 20 608

REEL No. 1-1337

0357

420407

17093

大正七年十月七日 陸

駐務高 第一課

海軍報第一六三號

大正七年十月四日

海軍司令部

浦塩電報 (十月三日)

ウハア九月廿日發電トレテ「コロロス」紙ニ現ハレタル全  
 國政府ト云テ「要旨」トシテ如シ  
 全西國政府ハ露國國民衆ニ告ク「十九百十八年九月  
 二十三日ウハア市ニ開キタル國政會議ハ全露國政府  
 ノ名ヲ以テテ決議ヲ為セリ」  
 註「曰ク本會議ニ列席シタル者左ノ如シ」

午後

- 一、憲法會議員
- 二、憲法會議各委員ノ代表者
- 三、西伯利政府代表者

- 四、烏拉爾州政府代表者
- 五、烏拉爾、西伯利、カシムク、セレーチエンスク、エニ  
 セースク、及アストラハン各哥薩克代表者
- 六、カシムク、アストラハン、トルギスタン各政府代  
 表者
- 七、露國內地及西伯利ニ在ルチニルゴタタル民族代表  
 者
- 八、エストニア 俄政府代表者
- 九、西伯利、烏拉爾、ウオルガ、河沿岸地方各市鎮  
 地方自治機關代表者
- 十、諸政黨及諸政黨即チ社会革命黨、社会民  
 主黨、労働黨、國民社会黨、國民自由黨、  
 統一派、露國復興同盟各代表者

MT

16324 20

611

MT

16324 20

610



第一、將來完備セル憲法會議ノ成立スルニ至ル迄全露國ノ統治權ヲ全露國政府ニ委任スルコト

第二、全露國政府ハ九ノ五名ヲ以テ形成スルコト

エヌ、デ、アウクセンチエフ

陸軍中將 エ、ケ、バルツイリヨフ

第三、ウエ、ウオロゴドスキー

エヌ、ウエ、チアイコノウスギ

更ニ九ノ五名ヲ以テ前記諸人差支アリタル時ノ代表者トス

ア、ア、アルグチノフ

ウエ、デ、ウイノグラドフ

陸軍大尉 エ、ウエ、アレキセエフ

ウエ、ウエ、サボトシニコフ

ウエ、エム、ゼンシトノフ

第三、全露國政府ノ意志ニ因リテ全露國政府ハ先ツ

露國ノ統一ヲ獨立ヲ復興スルノ基ヲ著手スルコト

シテ此ノ目的ヲ達スル為ニハ國民ヨリ委託セラレタル

権限ニ因リテ最モ堅實ニ且漸歩トシテ九ノ諸事

遂行ニ努カスルコト

一、過激派ノ政權ヲ盡滅スルコト

二、法律ノ勵行ハ治安秩序ノ恢復國民自由ノ尊

重

三、ブレストリウスノ媾和條約及露國ノ其ノ一部

カ獨塊ト締結シタル條約ノ實際的意味ヲ有

MT

16324 20

613

MT

16324 20

612

(百二十六三三)

- スルモノ一切ヲ破棄スルコト及聯合國ノ歩調ヲ探リテ權利ト正義ヲ基礎トスル永遠ノ平和ヲ建スルコトヲ奴カスルコト
- 四、祖國ノ復興ヲ大成シ大権ヲ正義的ニ解決スルニ必要ナル兵力ヲ組成スルコト
- 五、聯邦組織ニ依リ國体ヲ決定シ憲法會議ヲ議決依ルモノトシテ政府ハ地形、民族關係並各地ノ經濟上基キ各地方ニ能ク限リ廣汎自治權ヲ與フルコト
- 六、各市及各地方ニ自治機關ヲ復興スルコト並ニ治安秩序ヲ回復スルコト
- 七、戰爭ノ終ルニ隨テ之ヲ救ハシメテ爲種座興

MT

16324 20

614

- 業ヲ助長スルコト之レカ多ク而シテ外國ノ資本ヲ吸收スルコトヲ奴カスルコト共 諸種ノ不生之生業ヲ削減スルコト
- 八、地方分配ヲ大綱ニ他日憲法會議ノ決議ニ依リトシテ政府ハ能ク限リ土地ヲ實際使用スル者ノ手ニ留置クコトヲ方針トスルコト
- 九、經濟ノ原則ニ鑑ミ又實際ノ情況ヲ西歐ノ物質、並ニ物價ノ調節ニ奴カスルコト
- 十、勞働ノ関スル諸種ノ規定ヲ研究シ其ノ勸者ノ利権並ニ安全ヲ計画スルコト
- 民意ニ因リテ擁立セラレタル全路國後政府ハ其行為ニ關シテハ憲法會議ニ對シテ責任ヲ有スルモノトシテ政府ハ國家ノ復興、民衆ノ安寧幸福ヲ念トシテ行動ス

MT

16324 20

615

420410

シ国民ハ此息ヲ體レニ能ク之ヲ助成ス

(ロ一六三二四)

アラクセンチエフ

バルヅイリヨフ (Description)

サホーヅニカラフ

ゼンジュノフ

連四者

(終)

MT

16324 20

616

REEL No. 1-1337

0361



大正七年拾月八日 發

駐務局

第 三 號

至急親使

十月六日

十月 五日後十時 六日午前七時四十分着

總長電報

支極秘第六百五十七號 宛 在 齊藤中將

齊藤中將

420411

號17133

極秘

本日米国外務省ハ、覽書ヲ交附シ米國ノ西伯利及北露  
ニ對シ作戰大要ヲ聲明シテ曰ク、烏拉山脈以西  
ハ作戰不可能ナルヲ以テ、西伯利駐在ノ軍隊ハ入ル能  
ハス、米國政府ハ、多烏拉山脈ノ以西ニ於テ、  
ニ軍需品ヲ供給スル能ハス、且ツ英、米、佛、及、  
軍ハ烏拉山脈以東ニ退キ以テ、防守ニ便スヘク、  
現ニ各軍隊ノ軍需品輸送困難ナハ、ヨリ西伯利駐在  
全米國軍隊ノ總司令部ハ、若シ支那政府ニ於テ反對マサ

レハ米國政府ハ海峽附近ニ移轉セントス、之レハ爲ニハ、  
附近ヲ以テ、最モ適者トス、  
干決定シタル、最初ノ計畫ハ、  
既ニ支那政府ニ協議シタリ、北露ニ在テハ、  
セサル前ニ於テハ、所望ノ效果ヲ收メ、  
鼓ヲ整へ、  
今後唯海峽及其附近一帯ヲ防守スルニ止メ、  
米國政府ハ、只軍需品ノ供給ヲ繼續スルコトヲ欲スルモ、  
事實上其供給ヲ旺盛ナラシメ、  
遣スル能ハス、  
言ハ、既ニ英、佛、日、伊、  
支那國境ニ移轉スル件ハ、  
ハ其軍隊ヲ海峽ニ集メ、  
右ニテ指示スラ、  
右ニテ指示スラ、  
右ニテ指示スラ、

MT

16324 20

618

MT

16324 20

617

REEL No. 1-1337

0362

大正七年拾月八日 發

駐政務局

第一課

(軍機)

電報

十月六日

十月五日午後六時五分發

參謀次長宛

在 哈爾濱

黑澤大佐

武内中將ヨリ哈支第二二號

「プレシコ」ノ參謀長「フレスタ」キ「ハ」鐵道支社ノ在司ニ告

テ曰ク「ホルワット」ハ財政窮乏シアリ「米」國ヨリ東清ノ管理及利

益ヲ抵當トシテニ千万弗ヲ貸シテ「ハ」申込マシ居ルモ「東」

日本ノ「ミ」頼リ度キ考ニテ日本ヨリ借款シ「ハ」但シ自介ノ部

下ニ種々ナル系統ノ者アレヨ以テ「浦」潮ニ於テハ日本ニ對シ談話

ヲ進ムルヲ憚ルヨ以テ借款ノ見込アレハ「單」身哈爾濱ニ來ルヘント

依テ良キ法方ナキヤト「管」テ小官ト「ホルワット」トノ會談ニ彼ハ

財政窮乏ヲ告ケタル「小」官ハ東清南部線ヲ賣却スル

陸軍

か

420412

17134

第一課

為合理的方法ヲ見出ス能ハス只日本カ兵力ヲ以テ在領スル  
トキニ於テハ一言ノ言フヘキトナレト依テ或ハ内面ニ於テ之ヲ抵當  
トシテ借款スル意思ナキニアラスヤトモ察セラレタリ「就」テハ内面ニ  
於テ「ホルワット」ノ借款ニ應ジ表面ハ東清線ノ好機ニ乘ス  
ル武力ヲ在領ヲ行フニハ如何ト考フ日本ニ於テ此意思アリ  
ハ談話ヲ進メントス

MT

16324 20

620

MT

16324 20

619

REEL No. 1-1337

0363

極秘

大正七年拾月八日 接電

駐露高

第 五

420413  
號 17135 聯

至急親展

電報

十月六日

十月 廿九日午後九時五分發  
十月 廿九日午後七時五分着

局長

宛在

齋藤中將

支極秘六五七號

本職ハ昨日徐樹錚ニ對シ米國ヨリ回國軍隊ヲ哈爾濱

ニ駐在セシメントスル希望ニ就キ支那ニ交渉アリ先任官ナカ其

内容如何ト訊シ且日支兩國カ軍事協定ヨリ俄擲勢

力漸漸ノ執急ナリト方リ協同出兵セム為日本軍隊ハ哈

爾ニ駐在引キ續キ後方守備ノ任ニ當リテアルモノヤ俄

擲勢力ヲ驅逐シ北滿及北其ノ外周ノ露領一帯カ平穩

ナルコ方リテ米國カ後方連絡ヲ名トシ日支ノ如キ特

別ノ關係ナク且其ノ必要ナキコ答爾濱ニ駐兵セントスルハ

其ノ意ヲ了解スルニ苦シム察スルニテ吾々ノ軍援助後方連

絡ニ名ヲ藉リテ哈爾濱ニ駐兵シテ例ノ東清及北西伯

利鐵道ヲ管理セントスルニテサカト告ケタムニ徐ハ在米

支那公使ヨリ如何ニ最近米國軍隊ハ爾濱省駐在ニ關

ス交渉ヲ電報シ来シリ而シテ自分モ亦貴官(本職)ト

其ノ所見ヲ等クスルモノナカ其ノ電報ノ詳細明日貴官

ニ示レ協議スヘント約シ本日九月二十七日發(三十日着)在米

支那公使ノ電報(別電)ヲ持参セリ。支那政府ハ之ニ

關シ未タ何等回答セズ徐ハ本日段總理及陸外交總

長ニ米國ハ日支親善ヲ嫉視シ之ヲ廢止制也カ為哈爾

濱ニ駐兵セントテ申シ出テ先モナラシ支那トシテハ現在

不トハ外國兵ノ駐在スルコトヲ拒絶セサルハハハト意見

MT 16324 20

622

MT 16324 20

621

REEL No. 1-1337

0364

具申シタルニ何レモ全然之ニ同意ナリ唯茲ニ存フヘキハ  
 米國モ亦聯合國ノ一ナリ無下ニ之ヲ拒絶スルハ穩當ナ  
 ラス故ニ何等カ適當ナル辭令ヲ奉命スルヲ要ス田舎三ハ  
 其ノ國ノ關係ニ依リ輕重アルヘケシトモ日本モ亦何等カ  
 彼ニ對シ回答セラルヘケシハ日支兩國間ニ於テ其ノ回答ニ就  
 キ我々カ媒介者トナリ公使ヲ經テ却テ角立ツニ依リ  
 他意ナク意思ヲ交換シタルニテ回答シタルト云ヘリ依  
 ツテ本職ハ支那ノ意向ハ之ヲ報告シ本職ニ於テモ西國  
 ノ為ニ驚ト熟考スヘシト告ケタリ米國今更ニ申出ニ  
 就テハ帝國ニ於テ深ク詮議セラルヘキニト思考ス右  
 閣下何分指示ヲ請フ。

陸軍

MT

16324 20

623



420415

授17136號

電報

大正七年拾月八日 發

駐露

第一課

電報

十月廿五日午後一時三十分發

(十月七日)

參謀總長宛

在滿第七師團長

過日ガイダ少將が本職ヲ訪問シタル際彼ハセメノフトノ紛争ノ  
 事件ヲ中止スルヲ約シタルコトニ際シテハ既ニ報告シタルカ如ク尚其  
 際歩兵二大隊砲兵一中隊ヲ後方ニ残置シ極東ノ連絡ヲ維持  
 センコトヲ語リタルニ不拘尔後「カドレツ」大佐ニ該軍隊ヲ指揮シ  
 テ後員加ホ以東各州ノ身備鎮壓ニ任スギ總指揮官ヲ命ジ  
 該大佐モ亦之レヲ極大的ニ各地ニ公布シ露國ノ官憲並列國  
 軍指揮官ヲ無視スルノ舉ニ出ラタルヲ以テ本職ハ之レヲ看過ス  
 ルヲ得ス電報ヲ以テ「ガイダ」ニ對シ「カドレツ」ニ異ハタル命令ヲ  
 取消シ且「カドレツ」ヲ連ニ召還スルヲ警告シタルモ本四日「ガイダ」  
 ヲ「カドレツ」及其部下軍隊一部ヲ残置シタルハ臨時西伯利  
 亞軍  
 政府ノ依頼ニ依リタルモノニテ其目的ハ極東ノ連絡及極東ノ動  
 員實施ニ支障ナカラシメンガ爲ナリキ元來余及全「ナ」軍ハ衷  
 心日本軍ト親善關係ヲ維持スルコトヲ切望シタル故ニ誤解ヲ避  
 ケンカ爲メ「カドレツ」及其部下軍隊ヲ連ニ「ウオルガ」河ノ戰線ニ  
 召還スヘシ是レ閣下ニ對シ誠心親善ノ情ヲ披露スル證左ナリト  
 返電ニ奉レリ依ッテ將來其實行ヲ監視セントス右報告ス

由比 黑澤 啓

MT

16324 20

625

MT

16324 20

624

420416

受17137號

要目付了

大正七年拾月八日接獲

駐政務局

第一課

十月五日

十月四日午後九時八分發  
五月午辰八時三十分著

參謀電報

浦參第三百十九號

在

由比參謀長

間諜ノ言

下目下當地ニルウオロゴツキ「トウハア」全露政府トノ間ニ在リ如キ交渉行ハレツツアリ

陸海軍省及外務省事項ハ之ヲ「ウハア」全露政府ニ移シ西比利政府ノ其他ノ地方的行政事項ヲ監督ス

ニ「ホルワット」ハ總督ノ職權ヲ存スル極東行政官ニシテ而シテ總督ノ行政官ニシテ軍事統帥ニシテ其職權ハ及ハサルモノトス

西比利政府ハ多分「ホルワット」極東軍ノ統帥權ハ與フルトス

ナカレハレ是レ更ニ革命等ヲ起サシメテテ慮ルハナリ

三、「ホルワット」ヲシテ極東行政官トナシ其位置ハ安固ナルヘシ即チ斯ノ如キ國家的人物ノ任免ヲ輕クニ行フハ國交上ヨリ云モ面白カラサレハナリ

MT 16324 20

627

MT 16324 20

626

REEL No. 1-1337

0367

420417

授17139號

大正七年拾月八日發受

駐政務局

第二課

親展

十月六日

電報

宛在

宛在

在

軍參謀長

十月五日午後四時十分發  
午後四時四十分着

浦參第三二一號

ホルワット「オロコドスキー」総理ト間ニ妥協成立シホル

ワットハ極東總督(コンミンシヨングネラル)トナリ浦潮

ニ於テ「コンメルマン」シヨントシ之ニ市會ヲ

属スル由「コンメルマン」當地ニ於ケル名望家トハ社

會主義者ノ方面モ何トカ妥協シ行クヘシトノコトナリ

尤モ「オムスク」政府トウ「アレ」政府トノ關係未ダ明瞭

ナラサル所アリト云フ。

註、ワグネルマンハ浦潮商業會議所長

陸

軍

MT

16824 20

628

REEL No. 1-1337

0368

大正七年拾月八日 接電

駐政務高

第一課

十月五日

十月三日午後九時五分發  
十月四日午後四時五分着

參謀總長 電報

宛 在 浦潮軍司令官

浦參第三百十一號

十月三日午後八時五分發

一、在「アレキセ・フスコ」大嶋大隊ヨリ「マスク・キイチ」(「アレキセ・フスコ」南邊)

六里)ニ派遣シタル中隊ノ報告ニ依リハ此方面ノ敵ハ去ル十九日 鐵道橋附近

ニテ我軍ノ戰鬪ニ過激派二百名ノ敗竄兵約八十名ニシテ我軍ノ當地

ニ着スルヤ山中ニ逃走シ其附近部落ニ隻影ヲ認メス

鹵獲小銃六十一

二、大嶋大隊ヨリ「ゼーヤ」河支流ニ派遣シタル中隊ノ報告ニ依リハ「ウスチー」

ラ及其上流約百露里間ニハ敵ナク「マストイカ」(「ウスチー」上流約二百

露里)及其上流「ウオウスク・センスキー」一帯ハ金山ニシテ過激派兵約五百

及獨唄倭虜約五十名アリト。又過激派兵約二百名ハ九月二十日頃「ヌルク

ラダ」ヲ通過シ「クメイダ」附近ニテ上陸シ其舟ハ二十三日頃下航セリト。

三、「ゼーヤ」支流ノ搜索ヲ命ゼタル騎兵一中隊ハ三十日午前七時三十分

「アレキセ・フスコ」發「ゼーヤ」河左岸ニ沿ヒ前進セリ。

四、「ツイグダ」以西ノ鐵道守備隊長ヨリノ報告ニ依リハ「オウトシ」河金山ハ採掘

人員目下六千人ニシテ冬期ニ益々増加ス該地ハ「カストラ」ヨリ車輛ヲ通ス。

二、前電浦參第三百三號第二項「アレキセ・フスコ」附近ニ於ケル押収品中ニ金

塊七千三百九十三瓦ヲ加フ。

陸軍

MT 16324 20

630

MT 16324 20

629



外-

電報付

17152 號

電報

宛 在 齊々哈爾 土肥原大尉

十月五日 午後五時五分

參謀次長 宛

以下獨塊俘虜首領ノ踪跡ハ各地方官憲ニ  
令シ嚴探中ナルモ未夕判明セスト又參戰軍トシテ吳俊  
陞ノ第二九師滿洲里ニ移駐スルコトハ決定サレタモ未夕  
容易ニ出動ノ模様ナレト

陸軍

MT

1632420

632

天正七年拾月八日 接電

駐政務局 第一課

十月七日

外

電報付

420419

17113 號

電報

宛 在 齊々藤中將

十月五日 午前八時十分

總務部長 宛

支極秘第六五五號

ハハロフスク方面ニ對シ支那領土内ヨリ食糧品輸出解禁ノ件  
ニ關シテハ芳澤代理公使ヨリ外交部ニ交渉シ又本職ハ徐長戰  
督辦處參謀長ニ現狀ヲ説明シ盡力方ヲ希望シ置キタリ

浦潮海

陸軍

MT

1632420

631

天正七年拾月八日 接電

駐政務局 第一課

十月七日

要旨付了

大正七年拾月八日 發

駐政務局

第一課

電報

十月六日午後九時五分發 (十月七日)

次長宛

在哈爾濱 澤大佐

哈謀第七〇號

參謀長「フレシナヤキ」少將談。浦潮電報ニ依リハ「オ  
ムスク」政府ト「ホルワト」トノ妥協ナリ。「ホ」ハ五頭領ノ一人トナ  
リ東清鐵道長官タルト同時ニ極東大守タルシ但ニ同時ニ  
「オムスク」政府側ハ「ガイダ」ヲ以テ沿海少、沿黒龍少及烏  
蘇巨少ノ總軍司令官タラシメントセルカ日本軍司令官ハ  
絶對ニ之ニ反對タリト又「ハックス」ハバル少隊ニ露軍ニ入ル提議  
之ニ對シ浦潮「如何ニ返答ス」キヤ「フ」少將ニ問合セ奉ル  
「フ」少將ハ既ニ吾人ノ軍隊ハ編成ニ着手タリト、理由ニテ之ヲ拒  
絶セントスル旨語レリ但シ英國ノ提議ヲ退クルコト數回ニ及ラ

浦潮、旅順、千夕、海

以テ日本軍側ニテ一刻モ早ク露國軍編成援助ノ實施ニ  
着手セラレタラ然ラサハ英國ノ手前甚々吾境ニ臨ルヘキ旨  
語レリ

MT 16324 20 634

MT 16324 20 633

420421

秘 17154 號

秘

九月八日

駐政務局

第二課

電報

十月六日午後五時五分着 (十月七日)

次長宛

在ハシニ黒澤大佐

哈謀第七十一號

ハウオウスキジーズ新聞ハワックスノ露軍編成意見ヲ掲ケテ。當初ハ義勇兵組織トシ後ニ義勇兵制度トナスコト

指揮官ハ露國人ナルヘク「ウツア」ノ閣員「ボルドイレフ」將軍及「ジイドリックス」ハ通任ナルコト次其豐富ナル援助ヲ為シ得ルハ

米國ノミナルコト、英國ハ兵器彈藥ヲ供給シ得ヘキコト、政府ノ組織ナラサルモ連ニ軍隊編成ニ着手スヘキコト其他ニ亘リ長文ノ論説ナリ委細ニツキ報告通報ス

ニ「フレシヤ」キ少將「言」依ハ露國大尉「ミテ」ロイテル通信員タル「ロマネンコ」ハ「ワックス」ノ司令部ニ至リ歐露ノ通信ヲ担任

陸軍

スルコトナレリト尚「コ」少將ハ英國ハ連ニ有力ナル露國軍ヲ編成シ歐露ニ向ハシメントスルモ斯ノ如クセハ赤衛軍ニ屬スルモノヲ集クルノ必要アリ到底健全ナル軍隊ヲ組織スルヲ得サルニナラス却テ禍ヲ残スニ過キヌサモ本年中之極東ニハ少数ノ健全ナル軍隊ヲ作シ之ヲ練成スルノ必要アリ之レカ為日本ニ依頼シ英國等ハ寧ロ西部西伯利ニ於テ軍隊ヲ編成スルヲ可トセン英國ノ背後ニ米國アルハ慥ナリト

東京、浦潮、夕流

MT

1632420

636

MT

1632420

635

REEL No. 1-1337

0372

大正七年拾月八日 獲

駐露公使 第一課

十月七日

十月四日午後四時十五分  
十月五日午前七時十分

電報

參謀次長宛

在

滿洲里

荒木大佐

一、四日午前十一時滿洲里到着途中政露及高加索南方  
 面ヨリ避難民一團一列車ニ遭遇ス其多数ハ「アル」ニ  
 ヤレ入ナリ浦潮經由米國ニ到リテ労働ニ從事セントスト  
 ニ同一行中ノ「ブスコ」縣出身ノ兵卒上リノ社年(三回頁  
 傷シアリ)ノ語ル所ニ依レハ彼等ハ既ニ五月間ニ亘リ本  
 國ヨリ浪々シ家族ニ名ト共ニ獨心ノ壓迫ニ耐ヘス逃亡  
 シタルモノニテ約七千、留ヲ携行セシカ悉ク之ヲ賣清  
 シ途中被服類ヲ賣リテ漸ク露命ヲ繋グトテ「ヨシ  
 ヤツ」ヲ着クルノミ、

陸軍

三、此レノ言ニ依レハ過激反過激ハ論スル所ニアラス要ハ國內  
 ノ秩序維持ニテリ再ビ戰線ニ行カンコトヲ欲セス之レ世人  
 露國兵卒ニ對シ何等ノ敬意ヲ拂ハス恰モ犬馬ト同一  
 視スルニ至リタルノミナラス自己ノ有スレ「ゲオル」山勲功ニ對シ  
 テモ何等ノ特典モ何等ノ敬意モ表セス日政府ハ年金ヲ與  
 ヘラレシカ今之輩ニ何ノ欲スル所アリテ再ビ戰線ニ赴カンヤ  
 ト現時ノ露國民心ノ眞情ヲ遺憾ナク語ルモノトス

四、嫩江鐵橋守備日本兵ハ左岸「カホ」ニエルヲ占領シ  
 居レリ興安ハ夜中ニテ認めル能ハス

由比、武藤、黒沢清

MT

16324 20

638

MT

16324 20

637



420423

秘授17156號

大正七年拾月八日 露

駐露 警務局

第一課

五

十月七日

電報

參謀次長宛

在

齊哈爾

土肥原大尉

十月五日午後五時ヨリ午後八時ヨリ四分著

「チモ」大佐「カドレ」ノ横暴ニ對スル我々關東督軍ノ抗議ニ  
 做シ速カニ相當ノ處置ヲ為ス可キ件ニ關シ鄭督軍ニ勸告  
 セレニ彼亦數日前「チモ」ヨリ該通知ヲ受ケ大ニ憤慨シ吉林  
 督軍等ト共中央ニ抗議提出シ電請中ナリト云トナリ  
 シカ直ニ小官ノ勸告ニ同意シ「カドレ」日夜取敢テ鐵道警  
 備司令官車景雲ニ電命シ略爾賓陶司令ト同  
 様「カドレ」ノ宣言ヲナシ一般ニ之ヲ布告スヘキヲ命ジ「カドレ」  
 ニ對シ抗議提出ノ手續ヲ取リタリ又黑河道尹最近ノ行  
 動ハ協同出兵ノ精神ニ惡影響ヲ及ホス所以ヲ説明シ

陸軍

速カニ機宜ノ處置ヲ採ルルキヲ要望シタルニ主旨ニ於テハ異議  
 ナキモ何介護道尹ハ永年任ニテ「カドレ」内部ノ情實上遠カニ  
 處断シ難キ事情アルニヨリ今度ハ介介彼ヲ叱責スルト同時  
 ニ日本軍ト誠意協同事ニ從フヘキヲ嚴命シ置キ若シ將  
 來不都合ナル行為アルハ躊躇ナク断乎タル處置ヲ取ルコ  
 トトシ密シヤリ度キ希望ナル旨語レリ依テ小官ハ既ニ文句  
 附ノ人物ヲテ日支同ノ要衝ニ當ラシムル危險ヲ説キ再  
 考ヲ促カシ置キタリ

MT

16324 20

640

MT

16324 20

639

REEL No. 1-1337

0374

420424

秘授17160號

秘

大正七年拾月八日 警務高 第一課

電報

十月五日午後七時四十分  
十月六日午後六時三十分  
十月七日

總長宛

齋藤 中将

支極秘第六百五十四號

四日附書面ヲ以テ徐督辦處參謀長ヲ尤ノ如ク通報ニ奉レリ  
 「チエウ」軍司令「カイタ」ハ露國新聞ニ掲載シテ戰時軍事裁  
 判板ヲ設ケ且「カドレツ」大佐ヨリテ哈爾濱ニ於テ戰時軍法會議  
 ヲ設立セシメ 鐵道、電信業務均シク予ノ管理ニ歸スル旨ヲ布告  
 セリ 右ニ就キ日本領事ハ頗ル不都合トシ各國領事亦中國ノ主  
 權ヲ侵害スルモノトシ反對ノ態度ヲ持ス 韓國(支那)ハ該布告ヲ以  
 テ我國權ヲ侵害スルモノトシ外交部ヨリ浦潮駐在支那總領  
 事ニ命ジ「チエウ」軍司令ニ嚴重抗議セシメタリ 然レニ該領事  
 ノ報告ニ依レハ「チエウ」軍司令ハ軍法會議ヲ浦潮ニ移スコトハ夫レ  
 ヲ承諾セシモ同時ニ我國ニ向ッテ嚴重ニ從業員ヲ監督シ且「チエ  
 ウ」及露國人ノ犯罪者アレハ浦潮ニ在ル軍法會議ニ護送スルコトヲ  
 要求セリ 然レトモ從業員ノ監督ハ支那ノ責任ニシテ彼ノ要求ヲ  
 俟ツノ必要ナク犯人護送一ノ件ニ至リテハ從來露支間ニ約定アリ  
 テ該要求ヲ承諾シ難シ依テ浦潮駐在領事ニ右要求ヲ拒絕  
 スヘキヲ電命シ置ケリ

關東參謀長、哈爾濱、浦潮派

MT 16324 20

642

MT 16324 20

641

REEL No. 1-1337

0375

420425

秘授17161號

大正七年拾月八日 陸軍省

駐政務局 第一課

十月七日

十月五日午前九時五分

電報

參謀總長宛

在

第三師團長

參師謀第九號

九月二十日「イルクーツ」系報告綜合

一、一般ノ状況平穩ナリ然レトモ市中ノ強盜殺人等ハ白昼

ニ天行ナレ人心尚ホ不安ヲ免カレヌ市場ノ物治具ハ漸次

豐富トナリ物價ハ低下レハアリ

二、「ウツア」全露政府カ聯合國殊ニ「ユサツ」ノ後援ニ依リ

比較的右党ノモリ成立セシ為メ西伯利住民ノ大部ヲ

S. 凡黨カ一般ニ不安ヲ抱キテハ覆フヘカサレ<sup>車</sup>員ナリ

三、「イルクーツ」系「カテト」黨ノ新聞カ出兵論ヲ中傷シ

陸軍

「エエ」黨ノ新聞カ却テ日本軍援助ノ必要ヲ論シ  
了々注目ニ價ス

MT

16324 20

644

MT

16324 20

643

REEL No. 1-1337

0376

秘受17171

大正七年十月八日 謹

駐務高 第一課

海軍露報(特)第四六號

(部内限配付)

大正七年十月七日

海軍軍令部

黒龍鐵道及ヒセトヤ河方面

一、山田支隊ニ属スル歩兵一中隊ハ九月二十七日ソラカヤ金鑛  
 (ビーヤ河系ニ属スルモノ)ヲ占領シ又今支隊ト策應シ  
 セトヤ河ヲ溯航中ナリシ同支隊城少佐ノ指揮スル船  
 同ハ九月二十八日正午ダンブーキ上流ニ里半ノ地点ニ於テ  
 軍需品ヲ積載セル敵汽船ニ追及シ直チ之ヲ捕獲セ

二、コラツエフスキー(ダンブーキ西方約十三里)西方ニ於ケル  
 ハル所ノ金鑛ハ尙モ敵兵ヲクマカシ金鑛ニ在リ

シ敵兵ダンブーキ附近ニ我軍ノ到着スル以前段ニ該金  
 鑛ヲ撤退シテ逃走シ九月二十七日午後山田支隊ノ一  
 中隊同地ニ入リ際ハ敵影ヲ居住民ハ白旗ヲ掲ゲ一般  
 好意ヲ以テ歓迎シ金鑛主宰者(波蘭人)及其  
 職員モ表面我ニ対シ頗ル好意ヲ示レタリ  
 三、アレキセルフスク附近ニ於テ我軍ノ手ニ收メタル停虜及  
 上函獲品中ノ主要ナルモノ如シ

イ) 停虜  
 獨逸國人四名、露國入二百十四名及支那人一名  
 四) 函獲品中ノ主要ナルモノ  
 火砲二十三門、機關銃二十九挺、迫撃砲四門、  
 小銃六千餘、手榴彈千三百發、探照燈、  
 最新型飛行機各一機、汽船九隻、國平船

16324 20

646

MT

16324 20

645

MT



七隻、自働車十六輛（内直子使用し得ルモノ六輛）  
 測量機一、機園車二輛、客車三百三十一輛及備  
 信器材、糧秣、被服若干  
 四、第七師団長ハ爾後黒河昇備ヲ為大隊長ノ指  
 揮又ハニ中隊ヲ留シ船橋支隊ノ主力ヲ哈爾濱  
 ニシテラシムルヲ告ガリ

沿海州方面

従来沿海州方面在リシ英佛軍各二大隊ハ各二中隊ヲ  
 浦塩ニ殘置シ英軍ハ九月三十日佛軍ハ十月百戦セリ  
 ニコリスケニ出發哈爾濱方面ニ輸送セシメタリ

後貝加爾方面

第三師団ハ今後各二部ヲ以テスルヲシテ及ウセルヲ不

シテ去ル九月二十八日刊列ヲ通（過）シ西在シタル全師団  
 一部（歩兵二中隊）ハ翌二十九日ウエルヲ不ウジンスク  
 ニ到着セリ

(終)

MT

16324 20

648

MT

16324 20

647

420428

秘17177

ハ支拂ヒタル共残部約三千五百萬留  
 ハ未拂ナリト云フ、右ハ秋漁獲物ヲ  
 賣却シテ容易ニ支拂ヒ得ヘリト云フ  
 モノアル共過般過激派ハ運賃船  
 上流「ゼーヤ」河ニ持去リタル為、漁  
 獲物ハ今尚多ク「市」ニ在リテ之ヲ  
 西伯利市場ニ運送スルコトヲ得ス、  
 夜令之ヲ運送スルコトヲ得タリトスル  
 モ上流ハ戦乱、為購買力減少セ  
 ルリ故直ニ之カ代金ヲ得ルコト困難ナルベ  
 ク從テ労働者賃金支拂ハ容易ナ  
 リス又我領事ノ意見ニ依テ官公吏、  
 俸給官廳、經費支拂ハ目下西伯利

MT 16324-20

650

420428

秘17177

外務大臣

大正七年十月八日 接受  
 註務部 第一課  
 大正七年十月七日 午前一時五十分 香取局發  
 午後四時三十分 省無線局著  
 受信者 軍令部次長(次官同文)  
 發信者 第三艦隊司令長官  
 機密甲七號 電報譯  
 一、若シ速ニ「市」ノ借款問題成立セサレハ  
 尤、理由ニ依リ「市」ハ益々財政難ニ陥ル  
 ヘキコトト觀察セラル、其ノ際他國ニ先鞭  
 ヲ着ケラレサル為我ニ於テ不斷、注意心  
 ヲ拂フノ必要アリト認ム。  
 州自治會會長ノ談ニ依テハ漁業労働者  
 平均年給約八萬アリ其給料一漁期間  
 平均年給ニシテ其リ、  
 海軍

MT 16324-20

649

統一ナキ折柄差當リニ市帝銀  
 支拂ニ滞スヘキ金額多カルヘキヲ以テ  
 同店、困難少カラサルヘイト、但シ市銀  
 支店長ハ曩ニ過激派ノ掠奪ヲ免ル  
 為メ、ハ府「ブラゴエ」附近ノ銀行、及  
 有福ナル露國人ニ多ク、金銭係  
 管ヲ依頼セシカテ、漸次回收シ  
 ツアルヲ以テ、市、敗政ハ其援助ヲ  
 得得ヘキヲ以テ悲觀ヲ要ロスト諸  
 リシモ、彼ハ借疑問題ヲ有利ナル條  
 件ニテ成立セントノ下心ニテ殊更ニ市  
 ノ富有ナルヲ誇張セントスルモノ如シ  
 ニ、密ニ鐵、後援アル極東運輸

海軍

組合、不明、某露國人、名義ヲ  
 以テ東西伯利汽船會社ヲ設立  
 シ、同會社ヲ以テ黑龍江河用船舶  
 ヲ買收セシメ、ツ、アリ、已ニ第一流ノ  
 旅客船五隻、賣買契約成立シ  
 テ、年附金ノ交付終ヒリト云フ、  
 黑龍江航行ノ實權ヲ收メ、シカ、為  
 ニ、目下下落セル黑龍江汽船會社  
 株、買收モ亦一法ナリト信ス  
 右御參考ノ為

海軍

420430

秘送17207號

要目付了

大正七年十月九日 接獲

駐露 策謀課

十月八日

十月七日午後七時三十分  
十月八日午後十一時四分着

電報

參謀總長宛

宛

在 浦潮軍參謀長

浦參第ニテ

ノックス來訪ス、彼ハ露國軍十萬人編成ニ要スル物  
資及資金ヲ供給ス、キ英國政府ノ命令ヲ受ケタリト云フ  
而シテ彼ハ日本軍ノ一師團止ムヲ得サレハ一旅團ニモオケス  
迄激造センコトヲ懇願シタリ、彼レハ米國政府ノ決心ニ對シ  
テハ頻リニ要入ロシ居タリ

陸軍

MT

16324-20

653

REEL No. 1-1337

0381

大正七年十月九日 接受

駐露武官 策謀課

十月八日  
十月七日午後五時至五時

十月七日午後五時至五時

電報 總務部長宛 在 武藤少將

五日桑木報

「オムスク」政府ト「トムスク」會議トハ反目シ西伯利ノ主權ヲ爭ヒシモ「オムスク」政府ハ右ノ閣下ノ將校ノ大部見シ與ミシツクエヒノ後援アル「ペ」ラ「エ」カ「トムスク」ニテ威壓シラル目下ト康ヲ保テルモ「オムスク」ハ「S」ノ新聞全部ハ大ニ「オムスク」政府ニ反對セルモ當分動搖ナカラシウ「ア」全露國政府ハ高麗ヲトリト觀察セラル

英、米、佛、外交官ハ活動シアリ  
露國、將校ハ「ガイダ」ニ對シ戰々洶々タリ

陸軍

「ケ」エ「ヒ」將校ハ露國將校カ「ケ」エ「ヒ」ニ御蔭ニテ肩章ヲ附ケ居ル軍隊ヲ募リ得スト「エ」リ「居」レリ親密ト云フ得ス

露國將校等ハ日本トハ大ニ好意ヲ有ス

五日「ケ」エ「ヒ」ヤ「ヒ」ニ「ス」ク「著」ガ「イ」ダ「ハ」ス「ウ」イ「ロ」ウ「イ」「シ」ド「リ」ツ「ク」ス「ケ」デ「エ」ツ「ク」ト會議ス「ガイダ」ハ総指揮官ニ「ス」イ「ロ」ウ「イ」ハ後方指揮官ニ「シ」ド「リ」ツ「ク」ス「ハ」ウ「フ」ア「政府」陸軍大臣「ハ」ク「ガイダ」ハ「エ」カ「テ」リ「ン」ブル「ク」ニ位置シ目下到着、第二師團「シ」ラ「ペ」ハ「ム」ヲ「古」頓「セ」シトス

西伯利鐵道沿線ハ「ケ」エ「ヒ」ハ「ハ」少數ヲ殘シ烏蘇里、哈爾濱、ハ「イ」ル「ク」ウ「ク」シ「モ」ニ「全」部「戦」線「ニ」送「ル」  
既ニ輸送中

貨車自送ハ努力シアリ尚「ス」イ「ロ」ウ「イ」ニ傳フヘシト  
桑木ハ會議終ラ「ガイダ」ト「エ」カ「テ」リ「ン」ブル「ク」ニ（續ク）

MT

16324 20

655

MT

16324 20

654



秘

電報

總務部長宛

在

武藤少將

十月八日

十月六日午後五時二十分  
七日午前十一時五十分

五日桑木報(續キ)

「チタク」ハ三日頃「スイズラン」ヲ四日「欽道橋」ヲ失ヒ  
 「ウオルカ」右岸一兵ナシ「サマラ」モ数日中ニ敵ニ歸ス  
 可シト「レンヒリス」モ既ニ敵手ニ在リ北正面ニハ既ニ  
 聯隊到着シ数日前「タウダ河岸」「タバリニス」ホヲ占領  
 シ「烏蘇里」ヨリ行キシ第八聯隊ハ「クンゲル」方面ニテ  
 機關銃四十野砲六ヲ得タリ  
 浦潮方面ノ「チエ」ハ元氣ニ於テモ優レリト前鋒ニ述  
 ヘシ「ガイダ」ノ總指揮官タル意見ハ容レラレス「チエ」國

陸軍

民協會代表者「ハウル」ハ從來「スウイロウイ」ニ任セシカ  
 「スウイロウイ」ハ「チトリツクス」ニ讓ラントシ「聴カス目下」ウチ  
 ノ露國指揮官「ホルズイリヨ」ニ交渉中ナルモ難シカラン  
 「チトリツクス」ハ陸軍大臣「ヲモ」拒メリ「コシトリツクス」ハ軍司令  
 官ハ同時ニ政府ノ頭ナラサル可カラズ「繰返シ」ウチ  
 政府ノ二週内ニ倒ル可キヲ述ヘタリ  
 勳員ハ令セラレアルモ應スル者稀ナリ「チトリツクス」ハ  
 英佛ノ後援ヲ頼メルカ意氣軒昂「スウイロウイ」「ガイダ」  
 ハ比較ニナラス英佛武官モ「チトリツクス」ニ附屬シアリ彼ハ  
 聯合軍指揮官トナラントシアルカ「ジトリツクス」ハ西伯利政府  
 ノ將來ヲモ悲觀シ「歐露」西伯利ヲ分離スルハ独逸ノ欲  
 スル所ナリト言ヘリ

MT 16324 20

657

MT 16324 20

656

17218 420433

大正七年十月九日 接受

駐政務局 第一課

十月八日

十月七日午後七時〇分發  
八日午後七時〇分發

電報

參謀總長宛

在

赤尾 中 將

支那軍第九十二號

支那政府ハ昨日政府ハ報云テ「ケエ」軍ヲ交戦團トシテ承認スルノ宣言ヲ發表セリ其譯文左ノ如シ

「ケエ」民族ヲ獨立國家ヲ組織セント欲シ堅忍急ラハル中國政府ノ

同情スル所ナリ惟テ該民族ハ未獨壞ニ交對スルヲ以テ主義トナス

中國政府其行動ノ聯盟各國ト一致スルヲ以テ「ケエ」民族軍

隊ノ西進ニ當リ東清鐵道通過ヲ承認シ且種々援助ヲ與ヘ

リ今ヤ該民族軍ノ形勢日益茂盛セルニカリ中國政府ハ

深ク該民族ノ克ク武力ヲ以テ獨壞防禦ノ目的ヲ達セントシテ

陸軍

望ム故ニ西伯利亞於テ作戰スル「ケエ」軍ヲ以テ獨壞ニ對シテ正式ニ戰

闘ニ從事スル聯盟交戦團トシテ承認シ各國聯盟國軍隊ト

同等ノ待遇ヲ為スレ尙中國政府ハ「ケエ」國民委員會力統

御ノ能力ヲ具備スルニテ承認ニ必要ノ事件ハ該委員會ト

折衝スルコトヲ希望ス

MT

16324 20

659

MT

16324 20

658

REEL No. 1-1337

0384

420434  
秘授17235號

要目付

大正七年十月十日 發

駐務高

第(五)

電報

十月九日

十月八日 午後四時五分發  
午後七時十七分着

總長宛

在

浦潮派遣軍參謀長

浦參第三三七号

「千エツ」軍ニ支給スル兵器軍需品ノ代價ノ儀ニ付テハ  
當地ニアル仲國軍代表武官ハ仲國ヨリ支拂ヲモノト考ヘ  
諸種ノ請求ハ佛軍司令部ヲ經テ請求スルコトナリ居レ  
リ目下更ニ「千エツ」ヨリ小銃彈ニ千萬發ヲ要求シ居レ  
リ將來ノ要求モ亦限リナカルヘシ其上「ソックス」カ  
露國ノ新軍ヲ組織スルニ至レハ其方面ノ要求モ亦生ル  
ニ至ラン尚「セメヨノフ」カ「ムイコフ」カ「モフ」カ「マトコフ」キヨリ  
モ要求シ来ルヘシ之ハ從來ノ關係上見捨テ難アルヘシ  
尙賦政、鐵道援助等モ亦莫大ノ費用ヲ要スヘシ今日  
ハ此等ノ問題ヲ根本的ニ確定スルノ必要ナキヤ御參  
考迄ニ

陸軍

MT 16324 20

661

MT 16324 20

660

REEL No. 1-1337

0385

420435

授受17236

外

大正七年十月十日 陸軍

駐露

第 五

電報

宛 在

總務部長宛 (親展)

浦潮 軍參謀長

十月九日 午後五時三十分發  
十月九日 午前一時十分着

送付

「ウフア」政府ト「オムスク」政府ノ關係ハ未タ明瞭ナ  
 ラサルモ聯合軍カ「ウラル」ヲ越ヘサルニ於テハ「ウフア」  
 政府ハ「オムスク」ニ未テ函政府合體シ先ツ茲ニ全露  
 政府ヲ組織セントスルノ意向アリ此等ニ関シ交渉ヲ  
 重ネアルカ如ク「オムスク」政府ハ「ウエツク」ニ擁立セラレタル  
 關係上「カイダ」ヲ尊重ス佛國ハ固ヨリ之ニ對シ異議  
 ナキ所ナリ、過日「ルニヨール」未訪ノ際「カイダ」ヲ全露  
 國軍ノ指揮官トスルコトハ不同意ナリト述ヘタルニ彼モ之  
 レヲ諒シタリ英國側ハ「カイダ」ニ全露國軍ヲ指揮  
 セシムルコトニ就テハ必スシモ同意シアラス、要スルニ指  
 揮權問題ハ未タ確定シテラス、露露國軍ノ指揮  
 官ハ必ス露露國人ヲ以テ之レニ當テ「カイダ」ハ要スル  
 場合ニ於テ「バイカル」以西ノ露露國軍ヲ作戰上  
 一時指揮シ得ル如クスルヲ可ナリト考フ

MT 1632420

663

MT 1632420

662

REEL No. 1-1337

0386

大正七年十月十日 接獲

警務局

幕僚

十月九日

十月八日午後五時三十分  
九月廿七時六分

電報

總務部長宛

在

軍參謀長

浦參第百二十二號

謀報者ノ報告ヲ綜合スルハ左ノ如シ

一、チンメルマンハ、沿海州代官ニ任命セラレ、商工會書記

長「クルニフ」ハ副代官ニ任命セラレタリ、共ニ對日關係ハ

良好ナラン

二、ウツア全露政府ハ其ノ閣員ヲ任命セリ

會計検査院長「クラスノフ」(前建國大會委員會會計検査院長)

法相「スタルイケイウイチ」(イルクツク) 郵電管區長

大藏次官臨時藏相代理「ブヤノフスキー」(西伯利政府大藏次官)

陸軍

又「ウスツルゴフ」ハ西伯利政府ノ交通次官ニシテ、今人ハ全露

政府ノ交通大臣ニ任命セラレ、豫定ナリト

三、「ウオロゴキ」ハ本夜出発「オムスク」ニ歸ル

四、當市長「アカレヨフ」及「ゼストウ」長「メドウエセフ」ハ「ホル

ワツ」ノ極東代官タルニ反對スル電報ヲ全露政府ニ

打電セリ、未タ其ノ返電ナキヲ以テ見レハ何等ノ反響

ナキモノト認メラル、又兩者共ニ西伯利政府ノ政綱ト「ホル

ワツ」トノ政綱ト合一セルコトニ不平ナルモ、形勢又如何

トモスル能ハサル可シ (續)

MT 16324 20

665

MT 16324 20

664



420437

飛

電報

総務部長宛

在

十月九日

十月八日午後八時三十分  
十月九日午前六時三十分着

浦塩軍参謀長

浦参第3セシタノニ

共「ホルワツ」ノ極東代官ニ関スル一般ノ新聞ノ論調ハ露國ニ唯一ノ主権ヲ獲タルユトニ付、歡迎シヤリ

六、全露政府ノ位置ハ「エカテリンブルグ」ニ移轉スル竹巻ニシテ既ニ其設備委員ハ同地ニ派遣セラレタリ「ウフア」ニハ建設大會ヲ開ク筈ナリ

七、西比利州議會ハ暫ク召集ヲ見合ス筈ニシテ是レ全露政府及西比利政府ニ反對ナル分子(過激派ノ一派)アレハナリ

八、英國ノ代表者「サー・エリオット」ハ「オムスク」ニ到着セリ

(終)

陸軍

MT

16324 20

667

MT

16324 20

666

REEL No. 1-1337

0388

外

電報

授受17240號

肥電第十号

張參謀長ノ言ニ依レハ昨日黑河道尹ヨリ去月二十八日  
船橋支隊到着以來ハ專ラ督軍ノ訓示ニ基キ日本軍  
トノ交歓ニ努メ我軍式禮讓ヲ以テ日本軍ヲ迎ヘ日  
本軍亦禮ヲ以テ我ニ接シ両者ノ間極メテ円満ナリトノ  
來電アリ依リテ督軍ハ從来兎角優柔不斷ナリシ  
該道尹モ將來ハ日本軍ノ聲援ヲ得テ其面目ヲ一新  
スルニ至ルヘシトノ感想ヲ懷キ居レリト

電報

總務部長宛

在

齊々哈爾土肥原大尉

十月九日

十月八日午後二時發  
午後七時二分着

大正七年十月十日 發受

駐務高 第一課

陸軍

MT 16324 20 669

外

電報

420438

授受17238號

三師謀第一号

「ヒシヨクハ六日ケタニ來リ彼ハ後貝加爾州ニ新ニ戒嚴  
令ヲ布告シ州ノ軍政及ヒ民政ヲ自己ノ手ニ收メ同時ニ後貝加  
爾州ノ哥薩克及ヒ「アリヤア」民族ノ自治ヲ宣言シ又「イルク  
ウツ」軍管區司令官ニ對シ後貝加爾ノ軍政ニ関シテハ他ヨ  
リ何等干涉ヲ受ケサルコトヲ通告スル旨下リ而シテ今後更ニ時  
極ヲ見テ後貝加爾全州ノ自治ヲ宣言セントス尚「セミヨ」州  
ハ極東露國領三州ノ全兵權ヲ獲得スルヲ欲スルニ極東三  
州ノ全「コサク」總長タルレハ位ニ止ムルヲ可トスト考フ」

電報

總長宛

在

第三師團長

十月九日

十月九日午前七時五分發  
午前七時五分着

大正七年十月十日 發受

駐務高 第一課

陸軍

MT 16324 20 668

外

420439

秘 授受17241號

要目付

大正七年十月十日 接受

駐務局

第一課

十月九日

十月八日 午後一時十五分 祭  
午後六時五分 到着

電報

次長宛

在

新旅順 関東参謀長

吉林齋藤中佐報

吉林齋藤中佐報

吉林齋藤中佐報

吉林齋藤中佐報

吉林齋藤中佐報

吉林齋藤中佐報

吉林齋藤中佐報

ナリ云々

(各地濟)

陸軍

MT

16324 20

670

REEL No. 1-1337

0390

大正七年十月十日 接獲

警務部

第五課

大正七年十月九日

極秘

參一發第四十八號

參謀總長

黒龍後貝加爾兩州方面ノ情況

黒龍州方面ノ情況

第十二師團、セーヤ支隊歩兵第七十二聯隊長(大佐田所成恭)指揮  
 歩兵二中隊野砲兵一中隊ヲセーヤ市ニ置キ同地及其附近ノ掃蕩及  
 整理ニ任シ歩兵大隊(二中隊欠)騎兵聯隊(二中隊欠)及特種砲兵ヲ以テ  
 「ダンブーキ」(セーヤ)北方約二十里、「ウラジシルスキー」(ダンブーキ)東北方約  
 四十里、「ゲオルギエフスキー」(ウラジシルスキー)西北約二里)沿道數里ニ亘ル  
 敵ヲ掃蕩中ナリシモ敵ハ支離滅裂トナリテ四散シ追及スルモ價値少  
 キニ至リシヲ以テ十月五日頃ヨリ北方ニ向テスル追撃ヲ中止シ「ダンブーキ」  
 ニ歩兵一中隊「ウラジシルスキー」ニ歩兵一中隊(一小隊欠)機關銃一小  
 隊騎兵半小隊「ゲオルギエフスキー」ニ歩兵一小隊ヲ殘置シ其他ハ「セ

ーヤ」市ニ歸還セリ

後貝加爾州方面ノ情況

從來「ホルダヤ」(滿洲里西北約三十里)以西ノ準備ニ任セシ第七師團ノ  
 部隊ハ「アガ」(滿洲里西北約七十里)停車場司令部要員ヲ除ク外悉  
 ヲ第三師團ノ一部ト交代シ十月六日滿洲里ニ歸著セリ

MT 16324 20

672

MT 16324 20

671

420441

初受17270號

大正七年十月十一日 接受

陸軍省 第一課

電報

宛

十月十日

十月九日午後七時五分發  
十月十日午前七時五分着

總務部長 宛

在

由比參謀長

浦參第百五十五號

「コラエラス」附近ニ於ケル漁業權、鑛山採掘權及樺太ノ石  
油問題等ハ大倉組ト領事及ヒ島田ト間ニ詰合極メテ圓滿  
ニ進ミ露國側ト交渉有望ナリト  
大臣ニテ御示シテ乞フ

陸軍

3 MT 16324 20 673

初受17271號

大正七年十月十一日 接受

陸軍省 第一課

親展

電報

宛

在

十月十日

十月九日午後七時五十分發  
十月十日午前七時五十分着

總務部長

浦朝派遣軍參謀長

「ホルワツト」外交事務官末訪、談話ノ序ニ曰ク、「オロコス  
キー」ハ後貝加爾州ヲ極東ニ含ムニサル意嚮ナルモ之ヲ「ホル  
ワツト」政務区域ニ含有セシムルコトハ該方面ニアル日本軍  
ノ交渉等ニ萬事便利ナラン日本ニ於テ此ノ事ヲ主張  
セラルレハ或ハ後貝加爾ヲ極東政務区域ニ入ルルコトニナルモ  
知ラスト言ヘリ

陸軍

3 MT 16324 20 674



大正七年十月十一日 接受

管務局 第二課

十月十日

十月九日午後 露時五十分著  
七時四十分著

電報

參謀次長宛

在 哈爾濱 黑澤 大佐

岡本加納西大尉ヨリ昨日八日夜哈爾濱着本九日滿州里ニ向テ旅行  
 中會ニゴブリヤード人バトマジャポフ(ゴサツク豫備少尉)及蒙  
 古人ツイゾイポフナル者ト同車セリ彼等ハ露國支那兩國  
 ノ現情ニ乘リゴブリヤード及蒙古族ヲ一團トスル獨立國ヲ作ル  
 ノ企圖ヲ有シ之カ為日本ノ援助ヲ受ケルヲ必要トシ先ツ北京  
 青木齊藤兩中將ヲ訪ヒタル後セメテフト談合シ藤キト  
 大庭兩中將ノ盡力斡旋ヲ乞ハシカ為旅行スルモノニシテ  
 其主義ハ畢竟露國支那領土ノ分割ニシテ其人物識  
 量モ亦大事ヲ作スニ足ラサルモノナルモ彼等カ動スルハ在  
 陸軍

浦潮米國官憲ニモ會合セントスルノ口吻ヲ洩スコトハ注意ヲ  
 要スルコトナリト信ス旅行沿線各機關ニ通報ス詳細ハ此  
 等ヨリ報告アルヘキモ不取敢

MT

16324 20

676

MT

16324 20

675

420443

秘 授17273

大正七年十月十一日 授

對政務 第一課

十月十日

總務部長

荒木大佐

特荒第二四号

十月九日午後八時四分發  
十月十日午前七時五分着

浦潮露國側ノ通報ニ依リハ英國側ハ頻リニ各地方ニ於テ對  
日 各種ノ「アロバガンダ」ヲ為シツツアリ「ノックス」「ホルワツ  
ト」ニ對シ軍隊編成ノ企圖ヲ述ヘ其協力ヲ依頼シタルモノ  
ノ如ク其内容ハ未タ詳ナラサルモ其後編成ニ関スル司令  
部員ノ任命ヲ為シツツアリ又「ブルリン」隊ハ「ルスキー」嶋ニ  
赴クニ決シタリト稱ス  
ニ小官ハ明九日發哈爾賓ニ直行ス

陸軍

MT 16324 20 677

授17274

大正七年十月十一日 授

十月十日

電報

宛

在

土肥原大尉

肥電第十二號

總督軍ノ言

最近露領ヨリ雷省内ニ進入シ米ル過激派獨塊存虜勢ナカ  
ラサルニ當省兵力寡弱ニシテ警備至嚴ナルヲ得ズ後テ省境  
官憲等ニシテ往々 断然タル處置ヲ執ル能ハサルモ此ノ次  
第ナリ依テ昨日張督軍ニ對シ速ニ參戰軍ヲ派シテ  
セシメラレ度旨電報セリト

陸軍

MT 16324 20 678

420444

秘授17279

大正七年十月十一日接獲

鼓務高 第三課

編第十四號

第一師團ニ於テ第二自動車隊ノ編成ヲ令セラルル編成第一日ハ十月十一日ナリ

大正七年十月十日午後四時

陸軍大臣 田中義一

外務大臣 青木 田原 殿



MT 16324 20 679

陸軍

秘授17330

大正七年十月十二日接獲

鼓務高 第一課

十月十日

電報

十月十日 午後二時五十分

總務部長

宛在

軍參謀長

清參第三五六號

謀報者ノ談

一、オハリシ州代官ハブシゲヲ任命シ其副代官ハギンスナリ

共ニ親日主義ニシテ「ギンス」ハ日本ノ勲章ヲ有セリト就任共ニ今

明日當地出發赴任スル筈

前電「ラウラ」ハ「カムサツカ」州ノ「ミニ」代官ナリト云フ

二、週間ノ後當地ニ於テ極東「セイムストウオ」總會ヲ開キセイム

ストウオニ関スル諸問題ヲ決定スル筈ナリ

MT 16324 20 680

陸軍

420445

大正七年十月十二日接獲

陸軍部 第一課

陸軍部

電報

十月十日

十月九日午後七時五十分  
十月十日午前七時十分著

總務部長宛

在 浦潮軍參謀長

浦參第三五三號

秘授17331號

要目付了

第二課

「チエック軍」キリオ博士ヨリ「オルカ正面ニ於ケルチエック軍司令官「スイローウオイ」ノ報告ヲ日本政府ニ傳達シ請ヒ來レリ其要旨左ノ如シ

「サマラ」ハ最早五日乃至十日ヲ支持シ得ルニ過ヤサルヘシ是レ援軍到着絶望ニシテ軍隊ノ志氣阻喪シ始メタリハナリ軍事上及政略上「サマラ」ノ重要ナル言ヲ俟タス即チ「サマラ」ヲ失フハ全南露ヲ敵手ニ委スルニ等シク「オレンブルグ」及「ウラリスク」ノ運命亦僅ニ數日後ニ決

陸軍

スヘシ「サマラ」ヲ救援スルノ必要ヲ各關係者ニ了得セシムル為ニ努カヲ希望ス此間予ハ極力同地ヲ保持スヘシ

MT

16324 20

682

MT

16324 20

681

REEL No. 1-1337

0396

外

要目付

秘 17334 號

秘

大正七年十月十二日接獲

陸軍省

第一課

電報

參謀次長

宛

在

十月十日 午前九時五分  
「夕」第三師團參謀長

參謀百十七號

英國軍隊二列車(將校以下約六百、馬約五十)本月十日夕「着」本夕出發先ツイルクツクニ向ヒ輸送スルモ其ノ西伯利ノ行キ先キヲ言明セヌ

MT

16324 20

684

陸軍

外

420446

秘 17332 號

要目付

大正七年十月十二日接獲

陸軍省 第一課

字七

電報

總務部長

宛

在

十月十日 九日午後七時五分  
十月十日 午前九時五分  
由比軍參謀長

浦參第百五十二號

謀者ノ誘依ハ「ウラア」ニ在ル五頭執政官ハ「オムスク」ニ来ル者ニ「樺太」カムケヤカ州代官ハ「ラフマフ」之ニ任命セラレ「ケンメルマン」ハ沿黒龍代官ニシテ此ノ兩人ハ「ホルワト」ノ極東總代官ニ隸屬スル者ナリ  
三「カウオロゴスキ」ハ昨夜當地ヲ出發セリ白人ノ當地ニ在リレ間ハ極東ノ事ニ決定シ後員加爾州及其以西ハ「オムスク」歸還後ニ決定スル者ニシテ後員加爾ヲ極東内ニ入ルルヤ否モ未定ナリ

MT

16324 20

683

陸軍

REEL No. 1-1337

0397



420447

秘授17335號

大正七年十月十二日接獲

駐露高

第一課

十月十日  
十月十日午後六時三十分  
十月十日午前七時五分

旅順 閩東參謀長

電報

參謀次長宛在

閩作報第百四十七號

滿州里停車場司令官報

ワコニサ  
二衛  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十

○七日後四時頃當地ニ停車シアリシ英國軍隊ハ兵力ヲ以テ露國停車場司令官ニ客車ノ提供ヲ強請シ停車場内ノ運轉ヲ中止シ且ツ秩序ヲ亂リシヲ以テ當司令官ヨリ其兵力配置ノ撤退ヲ要求シ且當停車場客車數缺乏ノ現況ニ鑑ミ不法行為ヲ以テスル客車ノ要求ヲ止メンコトヲ勸告セシニ彼頑トシテ聞カス爲メニ我々停車場へ兵ヲ増加シ交渉約四時間ニ涉リ

陸軍

彼漸ク其ノ不法ナルヲ悟リ日本停車場司令官ノ權利ヲ侵害シ輸送業務ヲ滯滞セシヲ謝セシヲ以テ同盟軍ノ好ニ依リ彼ニ客車ニテ與ヘ此ノ紛争ヲ解決セリ其ノ横暴誠ニ許シ難ク其ノ指揮官ハ倫敦「ミッドルセックス」聯隊第三十五大隊長歩兵中佐「ジョンウォード」ナリ

MT 1632420 686

MT 1632420 685

REEL No. 1-1337

0398

大正七年十月十二日接受

駐露高 第一課

電報

統長

宛

在

北京

齋藤中將

十月

九日午後八時三十分發  
十日午前十一時十八分着

支極秘第六六七號

獨逸國休戰提議ニ関シ當地方ニテ外國武官ハ聯合團

ハ道千ニ之ニ應スルヲナカルヘシト觀測シ居レリ、本日露國公使

館附武官ノ言ニ依リ最近土耳其獨逸ヨリ離レテ媾和

ヲ希望シヤレハ同團ハコブルガリヤト同一ノ形式ニ於テ休戰

セシヘク之ニ踵クモハ獨逸ニシテ獨逸モ社會黨ノ意見ヲ容レ

ハ獨逸ヲ組織シタルニ繼ギシハ將來政治ハ民主的ニ指導セラル

ヘク然ルトキハ米國モ亦平和克復ニ同意スルヘシ但シ

獨逸カ各方面ニ於テ残酷ナル暴行ヲナセシ莫ニ就テハ嚴

陸軍

重ニ罰セラルルニ至ルヘシト觀測シアリ。卑見ニ依リ今ヤ歐

洲ノ戰事ハ終結ニ近ケリ此ノ際東部西伯利亞至支那ニ

於ケル帝國ノ地位ヲ一層確立スル為ニ積極的ニ活動スル

必要アリト信ス之カ為ニ帝國ヲ代表スルニ足ル有力者

及ヒ場合ニ依リテハ稍有力ナル軍隊ヲオムスクル地方ニ派

遣シ不日同地ニ建設セラルトスル中央政府ヲ支持スルノ要アリ

又支那對シテハ南亞何レモ偏セサルト同時ニ其ノ政府ニ對シ

テハ前由國ノ執シ如ク一層其ノ關係ヲ密接ナラシムルコト

必要ナリト思考ス。關東都督、哈爾濱、浦潮、科倫濟

MT 16324 20 688

MT 16324 20 687

420449

秘受17339號

要目付了

大正七年十月十二日接獲 陸軍部 第一課

電報

十月九日午後八時三十分發  
十日午後四時四十分發

總長宛在 北京 齋藤中將

支極秘六六八號

本日露國公使館附武官談

目下全露國政府ト認ムヘキモノハ次ノ五統領ニ依リテ代表セラル即  
 チ「ウフア」政府「アウクセン」チエフ、同「ボルツィ」フ、「サマラ」政府「ア  
 ストロフ」、アルハンゲリスク「政府」チエイコフスキー、「オムスク」政府「  
 「ウオロゴトスキー」ニシテ其首長ハ「アウクセン」チエフ「ナリ近ク「オム  
 スク」ニ其政府ヲ樹ツヘク英佛ハ其代表ヲ「オムスク」ニ至ラシムヘシ  
 米國公使館附武官「ドライ」ステルハ兩三日前北方ヨリ歸來シ其ノ  
 説明スル所ニ依ルハ米國ハ露國ヲ救助セントスルモ何レノ政府ヲ援

陸軍

助スヘキヤ目算立タス故ニ先ツ西北利ニ在ル「チエウク」軍ヲ援助ス  
 然レトモ烏拉爾以西ニ軍隊及軍需品ヲ供給シテ新戰鬪正面  
 ラ形成スルコトハ不可能ナリ依テ一師團、兵ヲ烏拉爾ニ派遣シ  
 別ニ軍需品ヲ供給シテ諒師團ノ指示ニ依リ露國軍隊ヲ編  
 成セシメントス之レカ順序トシテ先ツ「チエウク」軍ニ軍器及軍需  
 品ヲ供給ス佛國政府モ亦軍費及軍需品ヲ供給シ英佛共ニ  
 現ニ極東ニ在ル軍隊ヲ烏拉爾方面ニ進ムル等「ガイ」ダハ「  
 哈爾濱」ニ於テ「チエウク」及全露國軍ノ總司令官ト自ラ宣シ  
 ラ為セシカ何レモ之ヲ承認スルモノナシ然レシ米國ハ露國ヲ援助スニ  
 前ノ如キ意見ヲ有スルニ依リ「オムスク」政府ハ「ガイ」ダ  
 「チエウク」及全露國軍ノ總司令官ニ任命スルニ至ルヘシト思ハル是  
 就テモ軍需品ヲ最モ急速ニ供給シ得ル國ハ日本ナルカ先ニ西北利

MT 16324 20

690

MT 16324 20

689

REEL No. 1-1337

0400

420450

干渉ニ反對セン内田大使カ外務當局ト成リタル今日日本ノ意嚮  
如何ト問ヘルニ依リ本職ハ帝國ノ外交方針ハ内閣ノ更迭ニヨリテ  
變更スルモノニ非ラス從來露國ヲ援助セル日本ハ之ヲ絶続スヘク  
其詳細ニ就テハ東京ニ於テ協議セラレツ、カルラ信スト答ヘ置キ

（関東、哈爾濱、ハタラ、浦潮スミ）

陸軍

MT

16324 20

691

REEL No. 1-1337

0401

大正七年十月十二日接受 駐露武官 第一課

420451

秘受17340號

電報

次長宛在

十月十一日  
十月十日午後  
坂西少将

坂特電第八一號

参戦借款使途儘関してハ小官トシテ貴電第四十五號  
四九ノ趣旨甚キ嚴密ニ指掌スルニ去九月十五日  
坂特電第七十四號第五項述べ如ク右條記方法ニ關シ  
勝田若シテ其他ノ當局トシテ章公使トシテ間ニ正  
交換シテハ書翰又ハ之書トシテ其以答リ悉細通報セ  
尚書電第四五号ノ義ニ第四号ノ書ニ應取經理官トシテ  
軍隊訓練直接主管經理主任トシテ密接せん陣路ヲ  
保持スルハ由リ借款ニ應ジシハ帝國ノ成意カ有益ナ

外

効果ヲ齎シ所謂 協同防敵ノ目的ヲ完全ニ達セ  
ル所以ニシテ資本トシテハ帝國トシテ安心セシムル必要  
ナリ旨ヲ篤ト章公使ノ說明ニ依テ此報告ニ合テ様々戰  
軍隊訓練直接主管者トシテ我カ力應取將校ヲ選  
ビハシメテ後方當局者ニ傳達スルハ重キヲ注意シ成  
責任アリ回答ヲ求メラレタリ。 軍官軍士教導團トモ  
備撤ノ準備者ニ進捗シ軍官教導團ノ其職責概  
テ充足シ昨八日既ニ三百名ヲ將校學生ヲ收容  
シ昨九日小官第一面ノ巡視ヲ行ハルニ十三日軍  
學團第一面巡視ヲ行ハルニ

MT 16324 20

693

MT 16324 20

692

REEL No. 1-1337

0402



極秘

參一發第五十號

大正七年十月十二日接受

駐政務

第一課

大正七年十月十日

參謀總長

黒龍沿海兩州方面ノ情況

一 第十二師團長ハ十月五日頃ヨリ北方ニ向テスル追撃ヲ中止シ將來概ホ左ノ配備ヲ以テ殘敵ノ掃蕩、治安ノ維持及秩序ノ確立ニ努ムル筈ナリ

(一) 平田支隊(長歩兵少佐平田伊助、歩兵一大隊)ハ後貝加爾、黒龍兩州ノ境界ヨリ「ツイグダ」ニ至ル間、鐵道沿線及上記州界ヨリ「オリガ」河ト黒龍江トノ合流點迄ノ沿岸ヲ警備ス

第二課

運回

(二) 丸野支隊(長歩兵大佐丸野勝喜ニシテ歩兵一大隊半及騎兵一小隊ヲ基幹トス)ハ主トシテ「ゼーヤ」地方及「ツイグダ」ヨリ「アレキセフスク」東側鐵橋ニ至ル間、鐵道沿線及「ベンゾフスキ」(アレキセフスク)西南約十里ヨリ上流ノ「ゼーヤ」河並「セレンジヤ」河沿岸ヲ警備ス

(三) 山田支隊(長少將山田四郎ニシテ歩兵一大隊半、騎兵一中隊(一小隊欠)及

山砲兵一大隊(一中隊欠)ヲ基幹トス)ハ其司令部ヲ「ツラゴウ」ニシテ置キ主トシテ「ベンゾフスキ」以南、鐵道沿線及同地ヨリ下流ノ「ゼーヤ」河並「ブッセ」(「ベンゾフスキ」西方約十里)ヨリ下流「ヒラ」河合流點ニ至ル間、黒龍江沿岸ヲ警備ス

(四) 田中支隊(長歩兵少佐田中勝輔、歩兵一大隊)「ゼーヤ」河鐵橋ヨリ「ヒラ」ニ至ル間、鐵道沿線ヲ警備ス

(五) 「ヒラ」支隊(米國軍歩兵一大隊)ハ「ヒラ」ヨリ「ホクロカ」ニ至ル間、鐵道沿線警備ス

(六) 鹿島支隊(長歩兵少佐鹿島久治、歩兵一大隊(一中隊欠))ハ「ニコラエフスク」ニ位置シ主トシテ「ゴリン」河合流點以北、黒龍江沿岸ヲ警備ス

(七) 航空隊及輜重ハ「スパスカヤ」附近ニ又爾餘ノ諸隊ハ「ハハロフスク」ニ位置ス以上ノ配置ヲ終ルハ遲クモ十月二十日頃ノ豫定ナリ

二十日ヨリ沿海州方面ヨリ哈爾濱ニ到着セル佛國軍歩兵一中隊及「表」東部ヨリ浦潮ニ輸送セラレ十月七日ヲ以テ浦潮出發西進シタル同野砲兵一中隊ハ何レモ鐵道ニ依リ直路「チニヤ」ビンスクニ向ヘリ

MT

16324 20

695

MT

16324 20

694